

第1回枚方オクトーバーフェストを終えて ～第1回枚方オクトーバーフェスト検証座談会後半～

日時 平成28年10月31日(月曜日) 19:00～ 場所 北大阪商工会議所 青年部 部室

出演者 川北青年部会長、芝田、外村、坂楨、牧野、菅野、田中豪、岩本

前回は引き続き、検証座談会の様子をお伝えいたしません。

※検証座談会は長時間に及び、後半戦は10月31日(月)に収録いたしました。



1. 事務局

芝田：事務局の役割を教えてください。

岩本：事務局としては、事務局機能の構築を行いました。

具体的には、各本部の資料の構築、月2回の運営協議会議の運営、事業計画の作成、近隣への挨拶状の作成、イベント保険の具備。運営マニュアルの作成などが主だったところです。あと、フェスト本番中の運営に関するとりまとめや各本部間の役割の調整も行いました。

芝田：フェスト開催中に何かあった際の対応、判断をしていたということですか。

岩本：その通りです。開催前に細かい運営マニュアルを作成したものの、開催中にはマニュアルに載っていない判断に困ることが起きたり、各店舗と運営側との認識の齟齬が生じたりしましたので。

反省点としては、本部テントがある中で、その電話対応を誰がするのか、拾得物の管理を誰がするのかなど決めていませんでした。次年度は決めておければと思います。

芝田：事務局は役割がたいへん多岐にわたり、次年度への引継ぎが肝要ですね。

岩本：すべて引き継いでいかないといけませんね。

開催された10日間の中での当番制にしてもいいが、

事態を把握している責任者が期間を通して現場にいることは有効でした。

芝田：皆様、事務局に関して気になった点等ありますでしょうか。

川北青年部会長：坂楨統括リーダー・岩本事務局はわからない中でスタートして事務局を構築して貰ったから、本当に苦勞を掛けたと思っています。事務局をうまく運営してくれて有難いという気持ちが強いです。感謝の言葉しかないです。

地域活性委員会では、開催に向けての準備の最中を含めて、「何のために枚方オクトーバーフェストをするのか」という議論と並行して進んできたと思います。

坂楨：実際に開催してみないとわからないことがたくさんありました。

次年度も統括リーダーの役割は重要だと思います。

岩本さんの言う通り、運営委員長の下で、責任者が期間を通して現場にいることは必要だと思いました。

当日の現場管理は正副遊撃隊の仕事でもありましたが、「お酒を飲んでいない人が対応すべし」という点もございますので、私たち事務局も現場対応を致しました。

芝田：先ほど仰っていた、運営本部と各店舗との齟齬に関して教えてください。



事務局長
岩本 健

岩本：大きなところでは、デポジット制度への認識の齟齬がありました。

デポジット制度は保証金的側面があります。さいごにビールを購入した店舗で保証金を返すというルール of 徹底が必要でした。

川北青年部会長：全店舗が足並みをそろえて共通の対応をする必要がありましたね。

菅野：デポジット返却専用口をつくるという案もありましたね。

川北青年部会長：その方法はややこしいので不要だと考えます。人的資源を出さないといけないし、コストがかかります。他地域のオクトーバーフェストでは各店舗が責任をもってやっています。各店舗でやってもらう必要があります。

岩本：デポジットはお金に関わってくるので、きっちり

しないといけない部分ですね。

芝田：それは事務局・運営側の仕事だったのですか。

坂楨：出店本部の仕事と考えることもできます。出店本部と店舗とのやり取りが必要でした。

岩本：とはいえ、出店本部が毎日来て管理するのが可能かという問題がありますね。

菅野：出店本部も厳しいですね。結局、事前に各店舗の認識を合わせておくことが必要ですね。

坂楨：デポジット返却専用口は不要ですね。各店舗がやるべきです。

川北青年部会長：各店舗をYEGメンバーに任せしたのは、各店舗が自主自立してやってもらいたかったからです。

坂楨：お釣りが用意できないということであれば、出店できないということになります。なので、デポジット問題はそもそも発生すべきではないですね。

川北青年部会長：菅野出店本部長にも苦勞を掛けました。本当に有難うございました。

2. 広報

芝田：広報本部の役割について教えてください。

田中：広報本部は、まずチラシポスターの基礎となるデザインの募集を行いました。7社から応募があり、公平な投票の結果、外村さんの会社が採用となりました。

チラシポスターのデザインが決まれば、これを基礎として、チラシ、ポスター、京阪電車の吊り広告、駅構内のポスターの作成及び設置作業を致しました。京阪電車では車内放送をしていただきました。

ほかにも、ホームページやFB、おけいはん.ねっと、マイライフ、産経新聞、毎日新聞、まいぶれ、eo光、枚方つーしん、The NORTHなど多岐にわたる媒体で紹介していただきました。

芝田：今年は広報本部長と公募デザインを勝ち取った外村さんを中心に対外的な広報戦略を練りましたが、この方法はいかがでしたでしょうか。

田中：広告業者でないといけない部分があるので、外村さんが7社をまとめてくださりやりやすかったです。

外村：デザインに応募した複数の事業者に入ってもらって各事業者間で調整して広報を進めました。対外的な窓口としての旗振り役を致しました。

田中：枚方市からの修正依頼等に対応するため、デザイン業者が直接対外対応をすることは必要であると思います。

芝田：次年度以降どうするかですね。

田中：広告業をわかっていて仕切れる人ではないと行政や複数事業者の調整ができないところがあります。これを踏まえてどうするかですね。

川北青年部会長：指揮系統は決めておく必要があります



広報担当
外村 淳

ね。来年の体制が決めることとして課題です。来年以降引き継いでほしいですが、引き継いでいくところと来年再び決めなおすところの分別が必要です。

外村：あと、重要な広報としては、ひらつーさんです。

ひら婚とのコラボでオクトーバーの記事もお願いしたいと依頼したところ、共通点があるというところで、あわせて書いてもらった部分があります。

ひら婚も大収穫祭の一員でしたので、コラボして相乗効果がありました。

田中：広報を担当していて嬉しかったことは、実際にチラシができて配布され、京阪電車に乗っていたら車内放送がされていて、車内放送を聞くと嬉しかったです。

外村：デザイン業者として京阪電車の車内吊りには感動しました。

川北青年部会長：京阪本線だけではなく、宇治線、交野線でも車内吊り広告をしていただきました。準急以上の各車両で車内放送をしていただきました。

岩本：他方で、交野市では、枚方のオクトーバーフェストの告知が足りなかったところもあります。

芝田：来年への課題ですね。他には何かございますでしょうか。

川北青年部会長：もっともっと地元の事業者とつながっていけると思います。

外村：皆様を巻き込むにはもっともっと魅力を上げていけないといけませんね。

坂楨：来年もご協力していただけるよう頑張りましょう。

芝田：広報についてまとめると、今年も良かったけど今年を基盤に広げていけないといけない。今年やったものが幹になりさらに枝をつけて外縁を増やすことができるということでしょうか。

3. 会計

芝田：会計担当について教えてください。

田中：会計担当は、当日の釣銭の準備、売上の集計、各社への支払い依頼手続きなどを行いました。納税作業もする予定です。

川北青年部会長：納税は地域貢献につながります。

田中：開催中の苦勞としてはデポジットの釣銭が足りなくなりました。

外村：お客様に1,000円札を出していただく意識をつくるのが大事ですね。

コンビニではレジに「1,000円札足りません」と書いてあります。そのようなことをするだけで違うのではないのでしょうか。

芝田：釣銭の準備と、お客様から1,000円札を集める意識を上げることは来年への引継ぎですね。



広報本部長兼会計担当

田中 豪

4. 統括

芝田：次は統括ですね。

坂槇統括リーダーには、各本部を取りまとめたいただく役割をしていただきました。



統括リーダー
坂槇 俊哉

坂槇：私は、統括リーダーでしたので、ノートをつけていました。通称、坂槇ノートと言います(笑)。

私は開催中の10日間すべてに参加をして、毎日終礼をして、気づいたことを毎日ノートに書き留めていました。日々運営していく中でこれが生きてきました。

出店者さんの行動も毎日見ていましたし、日々起こる小さなトラブルも対応していました。

終礼は、最初は青年部メンバーだけでやっていたのですが、出店者への連絡事項が多かったこともあり、途中からは出店者にも参加してもらっていました。毎日の運営における出店者との意識確認がありますので、来年以降も終礼への出店者の参加は必要と思います。

来年統括リーダーになる方には、是非とも全日参加、終礼の開催を期待したいですね。

外村：終礼を繰り返すことで日々進化しますからね。

開催日は雨が多かったですね。運営側としては、雨が上がってからの動きが速かったですね。お客さんからも褒められました。

坂槇：他には全体の話になるのですが、お客さんがもっと川原町に流れてほしかったですね。

外村：川原町でもクラフトビールの店などはお客さんが増えたと聞きました。他にもうまくお客様を掴んだ店もあるようです。

オクトーバーフェストは21時までなので、その後、来てくださったお客様の受け皿になる工夫が必要ですね。

坂槇：それぞれ地域活性ですからね。

岩本：商店街の各店舗が潤ってもらいたいのが我々の気持ちです。地域活性につながって地域の業者が潤い地域の仕事を増やす、そこに意義がありますので。

坂槇：地域活性・波及効果ですね。

芝田：統括の仕事とは、実際の開催までは事務局で、開催されて以降は現場を仕切るというイメージでしょうか。

坂槇：私は、「なんでも言ってください。」とっていました。

統括として皆様の仕事ぶりを見ることができ、とても面白かったです。

フェストが終わり私はオクトーバーロスになりました(笑)。

5. 来年への提言

岩本：各本部が実施報告書を上げますので、来年の担当

者に見てほしいですね。運営する側としては、どう楽しむかが大事です。次年度以降もどのように地域活性に繋がるか模索していきます。

芝田：できるだけたくさんのメンバーに参加してもらいたいですね。

川北青年部会長：携わった人は「いい事業だった。」と言ってくれます。

来年、「一緒にやろうよ。」と言ってくれるメンバーが増えればいいですね。北大阪というくくりで、地域経済に波及効果を生んでいきたいですね。

芝田：店舗数についてはどうですか。

川北青年部会長：増やすことも検討できますが…。

外村：収益バランスの問題がありますからね。来年への課題ですね。

皆様には、フェストに、ちょっとでいいから参加してほしいですね。

参加して盛り上げて貰えればうれしいです。

田中：やっている趣旨をもっと周知徹底できたのではないのでしょうか。枚方オクトーバーフェストの意義はあくまでも地域活性、それをもっとアピールできれば良かったですね。

坂槇：参加者を増やすことが大事ですね。

岩本：地道なアピールを広げていくことですね。

川北青年部会長：他には、出店者が売上げを上げることは運営の屋台骨です。

運営と店舗との間の「有難う」の共有。それがYEGベネフィットであり相互理解です。

田中：出店者はリスクを負っていますからね。

6. 締め

芝田：最後は、運営委員長に締めていただきます。

川北青年部会長：まずは、枚方オクトーバーフェストに携わってくださったすべての皆様に厚く御礼を申し上げます。

期間を通じては、台風16号の影響に拘わらず約27,000人もの集客がありました。大成功でした。

行政や携わってくださった地域事業者の皆様の協力がありました。関わってくださった皆様は、仕事をしながらの大変な作業だったと思います。組織の団結の強さを感じました。これを今後も地域経済の発展につなげたいと考えています。フェストにより、ゼロベースから大きな連携ができました。自主自立できる組織相互間をつなぐことができました。

課題としては、第1回ということもあり、駆け足でしたので、様々な点でモアバターな選択をしました。次年度以降はベストの選択が増えるようにできればと思います。

次年度は2回目です。イベントとして正念場です。発展性をもったイベントですので、しっかり考えていき、メインの大収穫祭とともに枚方市活性化の起爆剤になればと思います。

皆様、本当に有難うございました。

北大阪商工会議所青年部



会員募集

若き起業家集団
Young Entrepreneurs Group

同じ地域の経営者として、いろいろな
考え方や個性を持った仲間達に
出会えれば・・・
きっとあなたの会社の経営にも活かせる
ことが見つかるはず！

2016年度スローガン

人を繋ぎ、地域を繋ぎ、
未来を繋ぐ「魅力あるまちへ」

〒573-8585 枚方市大垣内町2-12-27
TEL 072-843-5163 FAX 072-841-0173
北大阪商工会議所青年部事務局
<http://www.kitaosaka-cci.go.jp/yeg/>



平成28年度会長・川北修義



年に一度の総会



月に一度の例会



音楽サークル「KA-NA-DEI」